



2015

10

Bulletin

## Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2015 - 16 会長主題

# 一人ひとりが賜物。もっと発酵、もっと発信！

あずさ部長	標 克明 (甲府)	「ワイズメンとして一歩前進」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府)	「原点に立って、未来へステップ」
アジア地域会長	Edward K. W. Ong (シンガポール)	“Through Love, Serve” 「愛をもって奉仕をしよう」
国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ)	“Mission with Faith” 「信念のあるミッション」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上妻英夫 / 書記 鈴木田通夫 / 会計 尾内昌吉・金本伸二郎  
直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 沖 利柯

### 2015年10月例会

<EMC/E, YES の月>

とき 10月20日(火) 18:30~20:30  
 ところ 山手センター 101号室  
 受付 鈴木田祐子さん・金本伸二郎さん  
 司会 増野 肇さん  
 開会点鐘 会長  
 モットー・ワイズソング 一同  
 聖句朗読・祈祷 司会者  
 ゲスト・ビジター紹介 会長  
 会食 一同  
 ハッピーバースデー  
 楽しい歌 鈴木田祐子さん  
 卓話「地域活動：私の体験から」  
 諏訪町会長、戸塚地区協議会議長  
 本田 誠さん  
 ニコニコ 一同  
 山手Yの小窓から 担当主事  
 報告 担当主事、会長  
 閉会点鐘 会長

当番(第3班) 鈴木田(祐)、浅羽、金本、増野、

### 10月 HAPPY BIRTHDAY

飯野毅与志 さん 5日

会費の納入は、会計(尾内君)への納入または  
下記銀行口座への振込みをお願いします。

三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店  
普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

### ワイズメンズクラブ モットー

『強い義務感をもとう  
 義務はすべての権利に伴う』  
 “To acknowledge the duty  
 that accompanies every right”

### 今月の聖句

知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。

フィリピの信徒への手紙 1章 9~10a 節

### 9月報告

会員在籍数		18名
例会出席者	メン	14名
	メネット	一名
ゲスト・ビジター		8名
会員出席率		78%
ニコニコ		11,604円 (累計 21,704円)

B F 切手 -kg 外国切手 -kg



## 9月例会 報告

日時：9月15日（火）18時30分～20時30分

場所：山手センター101号室

出席者（敬称略）：

メンバー：浅羽、上妻、飯島（隆）、飯野、尾内（昌）、  
尾内（規）、沖、金本、功能、鈴木田（通）  
鈴木田（祐）、田尻、中村、増野 14名  
ゲスト・ビジター

大谷博愛さん（卓話者、拓殖大学政経学部教授、  
東京サンライズ・会長）

藤井寛敏さん（東京江東・元国際会長）

吉田明弘さん（東京西）

服部節子さん（東京たんぼぼ・会長）

藤江喜美子さん（ 〃 ）

小原史奈子さん（ 〃 ・部国際交流事業主査）

浅羽 恵さん（メネット）

金子磨矢子さん（飯野さん紹介）

合計 22名

司会 中村さん

記録的な猛暑の夏が過ぎたと思ったら9月に入ると一転して長雨が続き、10日には茨城県常総市で鬼怒川の堤防が決壊して街が浸水した。一方、国会の安保法案の審議は参議院で大詰めの攻防が繰り広げられ、国会周辺ではデモの波が連日続く暑い日々が続いていた。そんな落ち着かない日々の中で迎えた15日の例会でしたが、8月に戦後70年に当たっての安倍談話が発表されたばかりで、

大谷さんの卓話に対する関心の高さでしょうか、他クラブの方の出席も多く、盛会でした。

ハッピーバースデーは鈴木田祐子さん（文京区役所から菓子のお祝いをいただいたそうです）と浅羽さん、それに初めてご参加の金子さんの3人をお祝いしました。

楽しい歌は、「見上げてごらん夜の星を」と「ズンゴロ節」の2曲を浅羽さんのピアノ伴奏で歌いました。

そして卓話は、政治学者の大谷博愛ワイズから「歴史認識の諸相—今を考えるために」と題した大変有益なお話を伺うことができました。

### <卓話要旨>

私は1970年にまだ山手学舎の舎生だったが、1年間休学して南米をウロウロした体験談を山手クラブで話したことがあり、今回の卓話は2度目になる。奈良さんは父親みたいな存在で、奈良さんに「やってみろよ」といわれてサンライズクラブにチャーターメンバーで入会した。今、学舎OB会会長をしている。

私の専門は「政治過程論」で、政治の一番どろどろした決定のプロセスの中で客観的に言えることをお話しする。

### 1、歴史認識の三つの側面

第1の側面は太平洋戦争の位置づけである。これを侵略戦争であったとするのに対し、侵略ではない、大東亜共栄圏の構築でアジアの解放だったと主張する人もいる。

第2の側面は**犯罪的行為の認知—謝罪—賠償**である。きちんと認知し然るべき対応をしたかどうか**確認**の要がある。もういいだろうと言えるにはちょっとあいまいである。第3の側面は**国内的総括**である。これをしていない。一番大切なものが欠落している。軍部独裁の結果に対する責任追及がない。何故か。1951年に主権が回復すると、52年に戦犯の扱いをコロッと変えた。50年に戦犯を国内法上の受刑者と同様に扱うとしたのを、52年に取り消したので、国内法の犯罪者でなくなった。

## 2、政治家の資質・政治責任

政治家には情熱と責任感と洞察力が必要だとマックスウェーバーは言った。責任には**心情倫理**(誠心誠意)と**責任倫理**(たとえどんなに一生懸命しようが、結果まで責任が及ぶ)の二つがあり、日本の政治家には政治の影響力の大きさに対する責任倫理が欠けている(欧米にはある)。三角大福中(三木、田中角栄、大平、福田、中曽根)は全員首相になった。

敗戦という結果の政治責任は、総括されずに、うやむやになった。その原因に下記がある。①旧支配階級が残存した結果、総括したくない、総括させない、というごまかしが行われた。②暴力的右翼が存在した。③権力に従順な国民性(長いものには巻かれる)④言論の多様性を封じ込めるラベリング(レッテル貼り)、たとえば、革新=平和、保守=愛国(政治批判する者は愛国でない)。

政権=国家ではないのに、日本では政権批判させないために政権批判=国家批判の図式を作り上げ、国民は自己主張より同調を選ぶ。

## 3、安部体制の論理

- ① 安倍首相は政治信念が強く、近代デモクラシーの原点である立憲主義を無視し、憲法解釈を国民的同意なしのプロセスで変更している。
- ② 安倍さんは政界のプリンスで同志優先で政敵を封じ込めている。
- ③ 安倍チルドレンを動員している。
- ④ マスコミを威嚇し、操作している。

これは戦時中の軍事体制下、権力者の意向が政治を動かす、政敵を排除し、若手将校を活用し、言論統制・情報操作をしたプロセスと共通している。ドイツはナチス時代の体制の反省の

上に政治体制を考えているが、日本はそこが欠落している。

安倍反対のデモは安倍政治への不信感の表れである。日本はもっと議論をたたかわせることになれる教育が必要である。

(まとめ・機能)

.....

## 9月ヨルダン会 報告

9月15日(火) 16:00~

山手センター 101号室

出席: 浅羽、飯野、尾内、沖、機能、鈴木田、中村、増野 8名

- 1、ユースボランティアリーダーズフォーラムは浅羽、飯野が参加した。飯野がブリテンに報告を書く。
- 2、8月26日の東陽町センター閉館に関する説明会は浅羽が出席した。短時間で終了。
- 3、11月は山手・サンライズ・たんぼぼ合同例会会場は101号室、ジャズメン2名が演奏、会費は1人1,500円(山手ワイズは当日の自己負担1,000円、山手会計から500円)当日のニコニコは全額を東京Yの東日本大震災支援に寄付する。
- 4、チャリティーラン(9月23日)のボランティアに中村、飯野が参加する。
- 5、山手バザー:10月18日(日)に飯野、尾内(規)、機能、鈴木田(祐)が参加予定。山手クラブからジャガイモ3箱を提供(バザー景品用1、学舎のカレー用2)
- 6、あずさ部部会が10月18日(日)、甲府で開催浅羽、尾内、鈴木田が出席。
- 7、次期あずさ部役員体制づくり部長・浅羽俊一郎、書記・小山久恵(東京サンライズ)、会計・尾内昌吉、次次期部長・大野貞次(東京西)事業主査は未定
- 8、会計報告(尾内)
- 9、ブリテン10月号の「福島」は沖さんが寄稿。



## 10月卓話者のご紹介

### 本田 誠さん

諏訪町会長、戸塚地区協議会議長

1937年千葉県生。終戦後に諏訪町に移られた。国学院大（政経学部）卒。日産自動車勤務、定年後、諏訪町町会を通して地域活動に関わっておられます。

ユースボランティア・リーダーズフォーラム  
に参加して

飯野毅与志



9月11日(金)から13日(日)に山中湖センターでユースボランティア・リーダーズフォーラムが開かれ、3日間すべての日程に参加させていただきました。初日に東京駅に集合してバスで出発し、3日目にまたバスに乗り東京駅で解散するまで、ワイズメンの人たちもリーダーたちも一緒だったことはとても良いことだと思います。

基調講演も今リーダーに求められることについて、若いリーダーたちにとってもワイズの人たちにとっても良い講演でした。グループタイムもワイズの人たちも見学できて大変良い経験でした。キャンプファイヤーもユースリーダーもワイズの人たちもみな一つになれて良いキャンプファイヤーでした。

聖日礼拝は佐藤茂美ワイズのローマの信徒への手紙8:28の奨励があり、若い人もワイズもみんな神のもとで一つになるようになることが大切だと思います。

最後のまとめもユースリーダーの皆さんが良くまとめてくださり、ここで得たことを大切にしてそれぞれのYMCAでリーダーをしてもらいたいと思います。

## おたより (9月)

<奈良 信さん> 先日は皆様から暑中見舞をいただきまして、誠にありがとうございました。お心にかけていただき大変うれしい気持ちになりました。星野達雄さんご夫妻の近況もお知らせ下さり、近くの施設に入られているようで、そのうちに会いに行きたいと思っております。

山手Ysのご発展を心より祈っています。皆様も夫々にお元気にご活躍下さい。

<上妻英夫さん> 「長月や酷暑なつかし冷えた雨」9月に入り長雨続きそれも又冷たいもの。気候と暦通りに動くものの様です。小生3週間上げ膳下げ膳のサービスを受け、空元気で居りました。感謝です。

<浅羽俊一郎さん> 今の若者は私たちをどのように見ているのでしょうか。自分たちの親世代が長期不況の中で苦勞するのを見続けてきた彼らはバブル期を謳歌したその上の世代の助言・忠言を白々しい気持ちで聞いている、という話のある就職指導に関わっている方から聞きました。「頑張れば出来る」とは言えない、と。(ただ若者に近づいても、心をひらいてくれないでしょうね。)

<飯野毅与志さん> ユースボランティア・リーダーズフォーラムで、山中湖へ行きと帰り東京駅からユースの皆さま方とバスに乗せてもらって行きましたこと感謝です。

<飯島愛子さん> 夏休み中に孫と北海道旅行中にエスカレーターで転倒、骨折し、帰京して手術し入院中です。高齢者の骨折が他人事でないことがよく解りました。

(9月下旬に退院されたそうですがお大事に)

<飯島隆輔さん> 突然の妻の骨折事故と入院。仕事と家事(自分の食事の事)、犬の世話と何かと忙しい毎日を送っています。

<鈴木田通夫さん> 会長へ。Ysのための日々のご多忙のこと感謝。お疲れになりませんように。

.....

### 哀悼

石井一也さん(元東京セントラルクラブ、元東京西クラブ)が、9月19日に亡くなられました。享年83歳。9月22日に家族葬が行われたとのことです。石井さんは南東部部長(1985-6)、35代日本区理事(1989-90)、アジア地域会長(1995-96)、など、永年に亘りワイズダムへのご奉仕をされました。謹んで哀悼申し上げます。

## リフレッシュキャンプを通して

### 福島を想う

沖 利柯

昨年度より東京 YMCA が行っている復興支援活動の一環、リフレッシュキャンプの担当を務めることになりました。このキャンプは三菱商事株式会社の協賛を得て、郡山市、福島市、いわき市など東日本大震災、原発事故による被災者のファミリーを対象として実施しています。福島県外の東京 YMCA 妙高高原ロッジや、山中湖センターを用い、毎回 40 名のファミリーを招待しています。運営はYMCAのスタッフとリーダーが行い、思いきり外で遊びまわったり、親子の絆を強めたり、被災者同士の繋がりをつくったりという目的をもっています。震災後からスタートし、今年で 5 年を迎え、今までに 400 家族、1,000 名以上の参加をいただいているキャンプです。

東日本大震災は東北全域が被災し、未曾有の被害をもたらしました。5 年経った今、形に見えるものは徐々に復興しつつありますが、人々の心の復興は未だ課題があるように思います。とりわけ福島の放射能の問題は、目に見えないだけに人々に恐怖をもたらしています。昨年初めてこのキャンプを実施するために郡山に向かいました。郡山は線量が高い地域だと聞いていたので、ある恐怖心を抱えながら新幹線を降り、駅前広場に着きました。広場には線量計が設置されており、屋外ステージではメガフォンをもった男性が、放射能の恐ろしさを訴えていました。それでも、町は整然とし、人々も普通に生活をし、他の都市との違いは全く感じられませんでした。物の不自由さも感じられず、ホテルも東京と同じでした。

そしてキャンプが始まりました。駅前広場の大型バスの前に沢山の親子がやってきます。YMCA のプログラムに初めて参加する皆さんの顔には、期待と緊張がみられました。いつものようにバスプロでゲームや歌を楽しみながら目的地に向かいます。徐々に子どもたちの顔にも大人たちの顔にも笑顔が増えていきました。キャンプ場ではリーダーと子どもたちが広いグラウンドを走り回り、おにごっこやかくれんぼなど他愛もない遊びを楽しそうに、日が暮れるまで行っています。大人たちものんびりお茶を飲んだり、親子で一緒にボートに乗ったり虫とりをしたり、キャンプのプログラ

ムが進んでいきます。夜は大人の懇親会。お酒を交え、震災時の苦労話も飛び交いますが、終始明るいムードで楽しい時間を過ごしています。それでも別れの時になると、「本当に楽しかったです」、「子どもたちが帰りたくないと言っています」、「また会いたいです」という言葉を沢山いただきます。目に涙をいっぱいためて別れを惜しんでくださる皆さん。きっと心に抱えているものが一気に迸っているのだと、毎回胸が熱くなります。



みんなでスイカ割り (妙高高原センター)



そば道場でそば打ち体験をしました (戸隠)

以下に、皆さんからの感想文に書かれたものをいくつか抜粋させていただきます。

◎どこに出かけても親にくっついて自分で遊ぶことがあまりなかったのに、親の居場所を確認することなくお友達やリーダーと遊ぶ姿を初めて見る事が出来ました。疲れすぎてぐっすり眠る姿も初めて見ました。子どもは外で遊ぶことがどんなに楽しい時間なのかを改めて考えさせられました。猛暑と近くでの除染でなかなか外遊びをさせてあげられない現実があるので、またこういう機会を与えてもらえたらと思います。

- ◎たくさん歌や音楽が心地よく、皆でリフレッシュできました。虫とりなども福島ではほとんどさせません。草むらなどはまだ気になります。思いっきり遊べたこと、本当に感謝しています。
- ◎線量を気にすることもなくのびのびと土に触れ、外遊びがおもいきりできたことがとても良かったです。バスで福島を離れ、他県にはいったとき、やっとほっとできました。
- ◎隣村に住んでいた方で、他県に避難している方とお話が出来、震災当時の苦悩を共有することが出来ました。心の重荷が少しとれました。
- ◎震災以降あまり笑うことがなかったように思います。このキャンプではスタッフやリーダーの皆さんのおかげで、思い切り心の底から笑うことが出来ました。
- ◎福島はまだ線量というものがつきまとっていますが、何も気にせず大自然の中でびのびと過ごすことが出来、とても有り難く思っています。一度きりの参加ということでしたが、何度も来たくなる場所、何度も会いたくなる素敵なスタッフの皆さんと、是非またこのような機会をつくってください。
- ◎子どもたちを思い切り外で遊ばせたいと思って参加しましたが、しっかり親もリフレッシュすることができました。また子どもと一緒にボートを漕いだことで親子の絆も深まりました。

まだまだここには書ききれない沢山の思いがあります。東京に住む私たちが今できること。それは福島を忘れないでいること。心で寄り添っていくことではないでしょうか。一日も早く福島の方々が安心して暮らせる日が来ることを願っています。

## YMCAニュース

### ▼山手センターバザーのご案内

10月18日(日)10:30~15:00、YMCA山手の祭り〜来て・見て・遊んで〜が開催されます。現在献品箱を1階ロビーに設置し、当日14時からのお楽しみ抽選会の抽選券を1枚100円で販売しております。収益は山手センターのユースボランティアリーダーの育成を中心として、国際協力募金や復興支援のためにも用いさせていただきます。何卒ご協力をお願い致します。併せて当日のボランティアも募集中です。担当はスタッフの宮田と木村

です。何かご不明な点などございましたら、よろしく願いいたします。

### ▼チャリティーラン有難うございました。

9月23日開催の第29回インターナショナルチャリティーランは晴天に恵まれ65チームが参加をし、盛会のうちに終了することができました。山手からは3チームが出場。ウエルネスチームの10位を先頭に、学舎チーム16位、ユースリーダーチームは43位でした。詳しくは東京YMCAのホームページをご覧ください。

### ▼台風18号常総市水害被害復興支援募金

9月10日の台風18号により茨城県・栃木県・宮城県の各地には、甚大な水害被害が発生しました。常総市は広範囲の浸水被害で、市外に避難されている方、避難所での生活をされている方も多く、泥のかき出しや壊れた家財の撤去など住民の生活再建にはまだまだ時間がかかると思われます。

今回被災した日本キリスト教団水海道教会、常総市の附属二葉こども園と茨城YMCAはつながりが深く、講師やボランティアの派遣をしています。また、卒園した子ども達を対象に野外活動も実施しており、現在も水海道地区からキャンプなどへの参加者も多く、小学生から高校生までの会員や学生・社会人のボランティアリーダーもたくさんおられます。教会、二葉こども園舎、牧師館が約1メートルの床上浸水し、全ての園バス(3台)、公用車、牧師車も水没し、全く使えない状態です。

茨城YMCAでは、1日も早い復旧を願い、募金の受付を開始しました。日本全国のYMCAとして、このたびの「常総市水害被害」による被災者をおぼえ、茨城YMCAによる支援活動を支えるための募金活動を開始いたします。ご協力をお願いします。

<募金期間 9月18日~10月30日>

#### ●ゆうちょ銀行での振込み(郵便振替)

振替口座：00120-7-714728

公益財団法人東京YMCA 会員事務局

通信欄に「イバラキ」とお書き添えください。

#### ●銀行振り込み

振込先口座：みずほ銀行神田支店(店番号108)

普通 1123669

名義：公益財団法人東京YMCA

振込時に、お名前の前に「イバラキ」とお書き添えください。(例:イバラキ やまだ たろう)

公益財団法人東京YMCAへのご寄付は寄付金控除(税額控除・所得控除)の対象となります。(確定申告が必要です)

(沖 利柯)